



You Ain't Heard Nothin' Yet ! ヤー!

3月は『菜の花』

Vol.34 2022.3.10 えんじょい工房・『YAH!』編集室

天気予報と今日の料理

新型コロナウイルスとウクライナ、いずれも“ゲーム”などではなく、現実に見えぬふりをすることで断じて見て見ぬふりをしてはならない。がしかし、まるでメディアの手抜きみたいに“右へ倣え”の大合唱で、同じ内容を日がな一日垂れ流し？決して飽きてはいけない、“平和ボケ”して、対岸の火事としてはならない：とは思いますが、いっそのことを見つむってしまいたくもなる。

ところで、飽きてもいいはずなのに、ついついチャンネルをあわせてしまうのが『天気予報』と『料理番組』だ。いずれも今この時に参考にして生活に活かす（そういう人も多からうが…）ようなこともない。マンネリ、飽き飽きといえはその双壁といつてもいいはずなのに、なんとなく流しておいて驚きこそないものの、とにかく安心感に包まれるのだ。きつと、制作側は手を抜かず、マンネリを意識したうえで、内容を吟味して、工夫して世に出しているのだらう…と思う。見るものに阿る必要はないが、かといって侮ってはいけない。

雪

【こんな唄に出くわした②】

ちあきなおみと、日吉ミミで聴いてみた。対極的な唄いで、それぞれの特徴がよく出ている、それぞれ沁みるものだった。物語としては、いわば“修羅場”もので、それほど“深味”も感じないが、歌い手の力量？による沁み具合といったところかもしれない。ただ、『雪』の存在感というか、効果は絶大、これ以上の寒々しさはないだろう。

作詞：吉田旺

作曲：池毅

唄：ちあきなおみ

噂たぐって 北港
消息つきとめ うれしやと
あなたのアパート 訪ねれば
「どなた？」と女が 顔をだす
古いともだち 友達ですと
つくる笑顔に 雪…雪…雪…
雪…雪…雪…

「すぐにあのヒト 戻ります」
「どうぞ上って ください」と
微笑む真赤な その頬に
負けたとなぜだか そう思う
「汽車の時間が ありますから」と

頭さげれば 雪…雪…雪…
雪…雪…雪…

菜の花

線路端の土筆が頭を出して、菜の花が咲いて春である。妖しさを滲ませ、桜はすでに晩春といふべきだろう。世は相変わらずの騒然ぶりでも、陽射しは日に日にパワーを増して冬は終わった。すっかり整備されてしまった散歩道、通りすがりのありふれた所に咲いてこそその菜の花ではないか、むしろあまり見かけなくなつてやむなし、諦めよりも納得すべきなのかもしれない。

【こんな映画を観てきた】

『天国から来たチャンピオン』

HEAVEN CAN WAIT

-1978/米-

監督：ウォーレン・ビーティ、バック・ヘンリー

新米天使（バック・ヘンリー）のちょっとしたミスが、僕（ジョー＝ウォーレン・ビーティ）の夢を人生を危うく駄目にしかけた。でもそのお蔭で僕は人間の本当の優しさに触れ、もっと素晴らしい人生を見つけることができた。そしてやがてその夢さえ実現することになるのだ。僕の頭の中には“スーパーボール”しかなかった。その日の為にだけ僕は走り、投げ、日々を激しい闘いのうちに過ごしていた。